

波郷 記念館 だより

第52号



発行日 令和3年6月25日

江東区砂町文化センター
〒136-0073
東京都江東区北砂
5-1-7
電話 03(3640)1751

砂町文化センターでは、毎年、石田波郷記念館企画展を開催しています。今年は「砂町と清瀬、そして『惜命』（しやくみょう）」（仮）というテーマで、波郷の療養生活と俳句創作、また、俳文学史における「療養俳句」にスポットをあてます。そこで「波郷記念館だより」では、それらに関連する内容をご紹介します。

企画展は、二〇二二年十一月十六日（火）から十二月三日（金）、砂町文化センター二階展示ロビーで開催します。

石田波郷と結核

石田波郷は、戦後、江東区北砂町に居を構えます。結核が進行しているのに気づいたのは、転居した翌年の昭和二

十二年のことでした。

当時、結核は不治の病と恐れられていましたが、波郷は、手術によって助かる可能性があることを書籍『氣胸と成形』で知ります。そして著者の宮本忍博士が勤務する国立東京療養所（清瀬村）に入院し、胸郭成形術を二回、肺に合成樹脂球充填（じゅうてん）を一回、合計三回の手術を受けました。

昭和二十五年に退所するものの、昭和三十八年、肺に入れた合成樹脂球の摘出手術のため再び入院することになります。その後、波郷は五回の入院を繰り返し、最後の入院の一月後、昭和四十四年十一月二十一日に亡くなりました。

★企画展では、波郷が治療のために肺に入れた合成樹脂球やレントゲン写真などを展示する予定です。

たばしるや鴉叫喚す胸形変

もずきようかん きようぎようへん

胸部成形手術を受けた時の句。句集名『胸形変』の由来にもなっています。

波郷自身は句について「忽ちにして肋骨をとられた胸形変じ了（さと）る相を、声調を主として現はさうとしたものである。」と述べています。

句作の場へ砂町と清瀬へ

波郷は、砂町を「第二の故郷」、療養所のある清瀬を「第三の故郷」と呼びました。繰り返す入院と長引く療養により、清瀬の療養所は、波郷にとつて治療の場であるとともに俳句創作の場にもなつていったのです。

★企画展では、砂町と清瀬、それぞれの場での俳句創作活動について取り上げる予定です。



(館蔵)

昭和二十一年三月、北砂町に転居し、「鶴」を復刊。表紙の裏に「俳句は生活の裡(うち)に満目季節をのぞみ、蕭々(しやうしやう)と又朗々たる打坐即刻のうた也」と記しました。



(館蔵)

国立東京療養所では、波郷選句の「清瀬」と瀧春一選句の「松濤」(しやうとう)がありました。昭和二十四年頃からは、「松濤」に波郷選句欄が設けられるようになりしました。

療養俳句と『惜命』

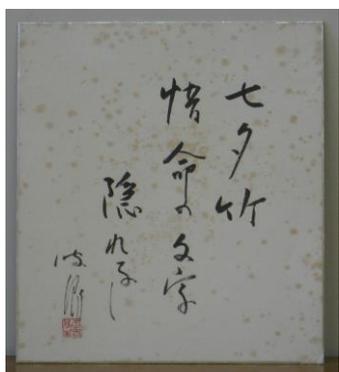
「療養俳句」とは、長期療養の中で詠まれた俳句のことを言います。俳句用語として定着したのは昭和初期以降です。結核が流行し、長期療養を余儀なくされた患者によつて俳句が詠まれるようになったためです。例えば、次のような句があります。

中尾白雨(はくう)「紫陽花に手鏡おもく病むと知れよ」
川端茅舎(ぼうしゃ)「咳込めば我火のごとくなり」

そして、療養俳句は、石田波郷の句集『惜命』の刊行により転機をむかえます。『惜命』は昭和二十五年に刊行され、病床吟をもつて一冊としている点が特徴です。波郷俳句の業績の一つとして高く評価されています。

波郷の師、水原秋櫻子

(しゅうおうし)は、「療養俳句が芸術的にこれほど高められようとは誰も想像していなかったのである。」と述べています。



波郷筆「七夕竹」句色紙(館蔵)

砂町文化センターニュース VOL.52

俳句を詠んで七夕飾り

～季節の五・七・五～

短冊に、季節を感じる俳句を詠んで飾りましょう。俳句の作り方についても、ミニ展示で説明しています。

★6/22（火）～7/18（日）

★砂町文化センター1階ロビー

★どなたでも ★無料



写真×俳句のコラボレーション

「こども江東歳時記」 作品募集

投句募集 7月10日（土）から 9月10日（金）まで

こころに残った風景、その時感じたキモチを写真と俳句で伝えてみよう！

- 対象：小学生～高校生
- 要項・投句用紙：
区内各文化センター、
総合区民センター、
芭蕉記念館で配布。
またはホームページ
をご覧ください。
- 締切：9/10（金）必着
- 無料



二〇二〇年度 第六回こども江東歳時記
「江東歳時記」賞受賞作品
「風鈴がお届け物を知らせてる」

小学六年 田中快翔

「こども江東歳時記」関連イベント 6/10から受付中！

こども俳句ワークショップ

砂町文化センター内の庭を講師と歩いて俳句作りに挑戦します。

感じたこと・頭に浮かんだことを俳句に詠んでみよう！

■日時：7月31日（土）9時30分～12時

■場所：砂町文化センター

■対象・定員：

小学生以上の児童と保護者 10組

■料金：30円（保険料ほか）

小学3年生以下は保護者同伴
（その場合60円）

■講師：大谷弘至（俳句結社「古志」主宰）

■お申込み：電話・窓口で（先着順）



2020年度ワークショップ

砂町で吟行&句会を開いてみませんか

【施設のご案内】～句会に～

砂町文化センターでは、「会議室」などをお貸出ししております（有料）。センターには、「石田波郷記念館」、「砂町図書館」が併設されています。図書館には「俳句関連図書コーナー」もあります。

【周辺のご案内】～吟行に～

文化センターの周辺には、石田波郷も歩いた妙久（みょうきゅう）寺や志演（しのぶ）尊空神社、JR貨物小名木川（おなぎがわ）線などがあります。

また、小名木川や仙台堀川公園、江戸時代に建てられた旧大石家住宅（江東区指定文化財）など散策をお楽しみいただけます。

【会議室を利用するには】

3か月前の3日午後1時から、お電話で予約をお受け付けいたします。

（例えば、4月3日午後1時から、7月分の受付を開始します。）

詳しくは、砂町文化センターホームページをご覧ください。お気軽にお問い合わせください。